

飽き足らぬ仲間の真冬の楽しみで
す。そして私が幹事の山梨での登
山。埼玉県外に在住する私にとつ
ては、十紫会は兎角疎遠な存在で
あった過去ですが、平成十四年機
会を得て本栖湖畔の竜ヶ岳への登
山を計画した処、多数の同志の参
加が得られ、以后今日まで、櫛形
山、茅ヶ岳、小檜山、日向山、釈
迦ヶ岳、と、年一回、計六回にわ
たり、山梨県内の山行を実行して
来ました。この二年間は、きのこ
狩りも併せて計画。宴会を含め一
泊二日の日程で組みます。どうや
ら十紫会の仲間の一人に復帰した
私の心境です。

終わりに

最早定年に至った十紫会のメン
バーは益々結束を固め、その活躍
は定例の活動以外にも、小規模乍
ら、文化活動、旅行、ゴルフ、本
格登山等多岐にわたり、交流を深
めています。個人的な活動状況も
十紫会に設置されたEメールによ
って忽ちその詳細が伝わってくる
のです。極めて良好な環境と云え
るでしょう。職業柄、私自身は、
この仲間に癌疾患の便りが殆どな
い事実に興味を持っていきます。健
全な肉体に健全な精神の統合は疾
病に対する免疫力を強化させる効
果があるのかもしれませんが。既に
臨床医学的には「癌適齢期」を過
ぎた十紫会のメンバーの活動は、
今後も、その人数を絶やすことな
く長く継続されることを期待して
いるのです。

最後になりましたが、今回投稿
の機会を与えていただいた川高校
内幹事新井敏彦先生、編集委員の
皆様、そして十紫会の高島敬忠先
生に厚く御礼申し上げます。